

第六講 古代メソポタミア文化の展開

レポート講評：

レポート課題：西アジアにおける農業戦略となぜ農業をしなければならなかったのか

多くのレポートは PPNA から PPNB にかけての変化について記述していたが、新石器に入ってから農耕と牧畜の開始に至るプロセスに触れるに留まっていた。その中で氷河期から後氷期にかけての時期に生じた気候変動と動物相の変化に触れ、安定した食糧の調達の必要に迫られたという原因に言及したレポートがあった。さらにヨルダン川渓谷に初期農耕遺跡が沢山出てくる原因を考察したレポートも見られた。気候の温暖化と乾燥化はヨルダン川流域の環境に大きな影響を与え、砂漠や荒れ果てた大地を拡大させ、人々はヨルダン川流域に追い詰められ、ある種の人口過剰をもたらした。狩猟採集では十分な食糧を確保出来なくなった人々は農耕や牧畜を始めることでこの危機に対処しようとしたことが農業の起源となったというレポートもあった。

このレポートで求められているのは西アジアでの農業戦略の形成のプロセスと、その背景にある事情や原因を考えることにあった。レポート課題として二つの設問項目があることから想定できるものと思われるが、多くのレポートはそのどちらかについてしか触れていなかった。

レポート課題：なぜレバントにおける農業文明がさらなる大型化の壁に突き当たったのか？

古代メソポタミア年表

時代区分	開始年代	終末年代	事由
カリムシャヒル	8000	6800	農耕牧畜直前・放牧の中間に利用

ジャルモ	6800	5800	最初期の集落・20~30戸
ハッスーナ	5800	5500	ティグリス河畔の平野部に進出
ウバイド	5500	3500	南部メソポタミアに農耕集落
ウルク	3500	3100	気候の乾燥化・都市革命・絵文字・en
ジェムデトナスル	3100	2800	ウルク以北への都市化・都市の拡大
初期王朝Ⅰ	2800	2700	ケンギル同盟・en と lugal
初期王朝Ⅱ	2700	2500	都市国家間の抗争
初期王朝Ⅲ	2500	2350	ラガシュのウルナンシェ朝
アッカド	2334	2193	メソポタミア地方の統一・サルゴン
ウル第三王朝	2112	2004	シュメール人最後の統一王朝・官僚制
イシン・ラルサ	2004	1763	イシンとラルサの対立
バビロン第一王朝	1763	1595	ハンムラビ・法典・ヒッタイトの侵入
カッシート朝	1595	1157	エジプト・ヒッタイトの抗争・エラム
バビロン第四王朝	1156	1046	アラム人の侵入
バビロン第十王朝	732	730	813 アッシリアのバビロン占領
アッシリア	745	612	ティグラトピレセル3世
四国対立	612	538	ネブカドネザル
アケメネス朝	550	331	538 新バビロニア・525 エジプト征服